

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	人間コミュニケーション学特別実験第二		
英文授業科目名	Adavnced Laboratory in Human Communication Sciences 2		
開講年度	2008年度	開講年次	
開講学期	通年	開講コース・課程	博士後期課程
授業の方法	実験	単位数	6
科目区分	電気通信学研究科-人間コミュニケーション学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学専攻		
担当教官名	各指導教員		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
<p>人間コミュニケーション学専攻の各専門分野における第一線の技術者・研究者となるべく、当該分野に係る高度な専門知識、技術、知見を修得するために、各研究指導教員の下で、データ解析、フィールドワーク、実験等を通し、自ら「研究」を行うことで各分野における方法論を修得することを主題とする。本実験を通じて、高度な思考能力・問題解決能力・論理的コミュニケーション能力を身に付けるとともに技術者・研究者としての倫理を自覚し、自律した技術者・研究者となることを促す。適切な方法論、実験手法を身に付け、自律してデータの解析、議論、論文の執筆が行えるようになることが本実験の達成目標である。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
研究指導教員と相談すること。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
研究指導教員と相談すること。

【教科書等】
研究指導教員と相談すること。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【授業内容とその進め方】

研究指導教員の下で、データ解析、フィールドワーク、実験等を行う。
具体的な内容は、研究室によって異なるが、基本的な内容を下記に示す。

1. 人間コミュニケーション学専攻の各専門分野における方法論、実験手法の修得
2. 自ら設定した個別テーマに関するデータ解析、実験、プログラミング等
3. 実験結果に対する議論、評価
4. 論文執筆

各専門分野における方法論の修得、未知の課題に対してのヒューリスティックなアプローチには膨大な時間が必要であるため、自主的かつ意欲的な学習態度が必要である。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

自ら設定したテーマについて、理論的あるいはヒューリスティックな実験を通し、新しい知見を得ることとその結果に基づいた論文執筆、議論を行うことが、合格の達成基準である。この成果をまとめ、発表し、議論を行うという全体的な過程を見て、教員群が達成度を評価する。過程では、成果を学会等に発表し評価を受けることが必ず必要となるので努力されたい。

【オフィスアワー：授業相談】

指導員により異なるので、予め確認して相談すること。

【学生へのメッセージ】

特になし

【その他】

特になし